

子供の時間

リリアン・ヘルマン

小池美佐子訳

英米秀作戯曲シリーズ 1

子供の時間 *The Children's Hour*

定 価 1500円
発行日 1980年 9 月25日初版第 1 刷
著 者 リリアン・ヘルマン
訳 者 小 池 美 佐 子
発行者 村 上 克 江
発行所 株式会社 新 水 社
 〒102 東京都千代田区富士見2-1-1
 富士見会館25号 Tel 03 (261) 8794
 振替東京5-36898
印刷所 株式会社啓文堂
 東京光画株式会社
製本所 トキワ製本株式会社

©Misako Koike, 1980 Printed in Japan
落丁・乱丁本はおとりかえいたします

子供の時間（三幕）

場面

第一幕

ライトロッドビー・スクールの居間。

四月のある日、昼すぎ。

第二幕

第一場

ティルフォード夫人の家の居間。二、三時間後。

第二場

第一場に同じ。その日の夜。

第三幕

第一幕に同じ。一月。

目次

子供の時間

今日に向かってかたつむりの歩みを

——リリアン・ヘルマン覚え書——

リリアン・ヘルマンについて

『子供の時間』について

作品リスト

訳者あとがき

169 167 151 134 131 1

第一幕

ライトロッドビー・スクールの一室。マサチューセッツ州ランセットの町から一〇マイルほど離れた、農家を改造した女子校。住み心地よく、もったいぶったところのないこの部屋は、午後は教室として、そのほかの時は居間として使われている。

中央左手寄りの正面に大きなドア。右手に片開きのドア。正面ドアの両側の壁面に本棚。右手に大きな机。ほかにテーブル一つ、ソファ二脚、椅子八〜一〇脚。

四月のある日、昼すぎ。

幕があがると、リリー・モアター夫人、中央右手寄りの大きな椅子の背に頭をもたせ、目を閉じて坐っている。小肥りで赤ら顔、髪を赤く染め、教師にしては派手すぎるドレス。四五歳。

一二歳から一四歳の少女たちが七人、椅子とソファに思い思いにグループをつくって

坐っている。そのうち六人はさほど身を入れるでもなく、白い布切れを縫っている。残りの一人、イーヴリン・マンは自分の前に心配そうに坐っているロザリーの髪を鋏で、切っている。イーヴリンはロザリーの頭を妙な角度にのけぞらせ、ひとり悦に入っている様子。

八人目の少女ベギー・ロジャースは、一段と高い椅子に坐り、本を朗読している。退屈した様子。うんざりした声で節をつけて読む。

ベギー 「慈悲は二重に祝福をもたらすなり。与えるものを祝福し、受けるものをも祝福す。いかな強者たりとも慈悲の力をしのぐものはなく、王にとっては王冠にもまさる王者のあかしなり。王笏などただ仮の世の権力、畏怖と威厳のしるしにすぎぬ。そこに……」（モアター夫人、急に目を開き、髪を切っている二人をじっと見る。少女たち、イーヴリンに警告しようとしている。いろいろ試みる。ベギー、声をはりあげ、叫ぶように）「あるのは、王を恐れおののく心のみ。だが慈悲は……」

モアター夫人 イーヴリン！ 何をしてるの！

イーヴリン（舌がもつれるような発声をする少女） いえ、べつに、ミセス・モアター。

モアター夫人 いいえ、何かしています。たとえば、鋏を台無しにしているわ。

ベギー（大声で） 「だが慈悲は、この王笏にもまさり……」

モアター夫人　ちよつと待って、ペギー。あなたたち、おとなしく坐ってお裁縫をして、不滅の詩人の不滅の言葉に酔いしれることはできないのですか。きわめて、遺憾ですね。（ため息をつく）イーヴリン、お裁縫に戻りなさい。

イーヴリン　　へみをまっしゅぐにできないんです。ほんとなんです。もう三週間になるのに、どうしてもできないんです。

モアター夫人　へレン、手伝ってあげなさい。

ヘレン（立ち上がり、イーヴリンが縫っていた服を高々とかかげる。服は汚れて形がなくなり、何
度も切っているうちに小さくなり、もはや五歳の子供にも着られない。くすくす笑いながら）
これじゃ、先生、入らないわ。

モアター夫人（曖昧に）そうねえ、何に使えるか、考えてごらんなさい、ハンカチとか。頭を使うんです。女はこういう工夫ができないと。（ペギーに）続けて。「いかな強者^{つちもの}たりとも慈悲の力をしのぐものではなく」

ペギー「しのぐものではなく、王にとっては王冠にもまさる王者のあかしなり。王笏——王笏などただ仮の世の権力、畏怖と威厳のしるしにすぎぬ。そこにあるのは……」

ロイス（部屋の後方で、前の台詞に重ねて、静かに単調に、節をつけて）フェレバーム、フェレバ
ース、フェレバット、フェレバームス、フェレバーティス、フェレ——フェレ——

キヤサリン（二つ離れた席から、教科書を目の前に立てて）フェレバント。

ロイス フェレバームス、フェレバーティス、フェレバント。

モアター夫人 誰です、いまのは？

ペギー（物音止む。あわてて先を読む）「そこにあるのは、王を恐れおののく心のみ。だが慈悲はこの王笏にもまさる。この世の権力を越え、王の心に玉座を占めるものにして、これぞ神ご自身（神）のそなえ給うもののひとつなり——」

モアター夫人（悲しそうに）ペギー ポーシヤになったつもりにはなれませんか？ 感情をこめて読めないかしらねえ。憐れみをこめて。（夢みるように）そう、憐れみ。思い出すわねえ、ヘンリー卿がくりかえし言っておられた、憐れみこそが女優をつくる、って。どうしてあなたには、その憐れみが感じられないのでしょうか？

ペギー 感じてるつもりですけど。

ロイス フェレバームス、フェレバーティス、フェレ——フェレ——

キヤサリン フェレバントよ、バカ。

モアター夫人 誰でしょうねえ、お喋りしているのは？ ペギー、もう一度読んでごらんさい。

キューはあたくしが出しましょう。

ペギー キューって何ですか？

モアター夫人 キューってのはね、俳優が次の台詞セリフを思い出すきっかけをつくるための言葉とか文章です。

ヘレン（そっと、呟くように）その俳優さんて、男かしら、女かしら。

ロザリー（眼鏡をかけ、やや肥りすぎの少女）先生は、映画には出たことないんですか？

モアター夫人 出演の話はね、何度もありましたよ。でもねえ、映画は軽薄ですよ、芸術として。ないでしょ、その、つまり（曖昧に）第四次元が。さあ、ペギー、この課題に心底浸りきってみましょう。いいこと？ あなたの弁論で、ひとりの男の命が救われるかどうかなのですよ。（立ち上がると、少女たちの間からかすかのために息が洩れ、無表情な、退屈しきった顔が向けられる。モアター、身振りをまじえて朗読する）「だが慈悲はこの王笏にもまさる。この世の権力を越え、王の心に玉座を占めるものにして、これぞ神ご自身のそなえ給うもののひとつなり。すなわち、慈悲が正義に加味されてこそ、人の世の権力は、神の統治に近づくのだ」ロイス（歌うように）ウートル、フルーオル、フンゴル、ポティオル、それからヴェスコルは、与格をとる。

キャサリン 奪格だってば！

ロイス あら、やだ。ウートル、フルーオル、フンゴー――

モアター夫人（ロイスに、皮肉をこめて）何かみんなに言いたいことでも、あるの？

ロイス（弁解するように）ラテン語の試験がこのあとあるんです。

モアター夫人 それで、お裁縫と朗読の時間にしようというわけなの、きのうのうちにすませておくべき勉強を？

キャサリン（うんざりしたように）この人には、きのうだけじゃ足りないんです。

モアター夫人　だからといって、こんなふうに授業の邪魔するのは許せません。

キャサリン　でもあたしたち、お裁縫はすんです。

ロイス（うっとり）先生は、ラテン語がおじょうずだったんでしょねえ。

モアター夫人　ほほ、むかしむかしのお話よ。それではね、教科書を持って窓ぎわへ行きなさい。

わたしたちはシェイクスピアを鑑賞しているのだから、邪魔をしないように。（キャサリンと

ロイス、席を立つと窓のそばへ行き、立ったまま身振りを混え、小声で暗誦する）さあ、続け

ましょう。「そなえ給うもののひとつなり——」（ちやうどこのときドアがそっと開き、メアリ

ー・ティルフォード、しおれかけた野草の花束を手に、用心深くすべり込む。一四歳。とりた

てて美しくもなく醜くもなく、目立たない感じの少女）「すなわち、慈悲が正義に加味されて

こそ、人の世の権力は、神の統治に近づくのだ。われらは慈悲を仰いで祈るとき、その同じ祈

りに導かれて——」

ペギー（うれしそうに）三行とびました。

モアター夫人　女優になってこのかた、わたしは一行たりともとばしたことは、ありません。

ペギー　でも、たしかにとんだんです。（本をもって傍へ行く）ほら。

モアター夫人（メアリーが壁づたいに部屋奥へとにじり寄るのを見つけ、メアリーのほうを向

き、ペギーと本から身をかわす）メアリー！

メアリー はい、ミセス・モアター。

モアター夫人 ずいぶんとごゆっくりでしたねえ。いくらお裁縫に興味がなくなつたって、礼儀ってものがあるでしょう。礼儀とは、お育ちです。お育ちというのはね、すばらしいものなのです。よ。(クラス全員に向き) 覚えておきましょう。

ロザリー あっ、先生、それ、書いておきたいんですけど。

モアター夫人 いいですとも。みなさんも書きとめますか。

ペギー でも、それ、先週書きました。

メアリー、くすくす笑う。

モアター夫人 メアリー、返事はまだ聞いていませんよ。どこへ行っていたのです？

メアリー 散歩しました。

モアター夫人 そう、散歩ね。それではひとつ伺いますがね、お嬢さん、散歩というのは授業中にするものでしたかしら？

メアリー すみません、この花を摘みに行つてたんです。先生がおよろこびになると思つて。それに、こんなにおそくなるとは思わなかつたんです。

モアター夫人(氣をよくして) おや、まあ。

メアリー 先生、先週おっしゃったでしょ、お花が好きだって。だからあたし、摘んでこようって
思つて――

モアター夫人 まあ、それは優しいこと。思いやりがあるのはいいわ。でもね、授業はきちんと出
なくては行けません。さあ、花瓶を持ってきなさい、さっそく生けましょうよ。(メアリー、
背を向けると、ヘレンに向かって舌をつき出し、「ヤーイ」と言う。左手に退場) ペギー、教
科書をしまいなさい。ご両親は、あなたが役者になるかと氣を揉む必要もないようですね。

ペギー 女優にはなりません。あたし、灯台守の奥さんになりたいんです。

モアター そう、そういうことなら、ご主人には読んで聞かせないほうがいいわね。

モアター夫人、教室中の笑い声に満足する。ペギー、着席。他の少女たちは、何をす
るでもなくただ忙しそうに見せている。モアター夫人、椅子にもどり、頭をのけぞら
せ、眼を閉じる。

キヤサリン この先どこまで、ああカティリーナ、どこまでわれらが忍耐力をなぶりものにするの
だ？ (訳注 ローマの哲学者キケロ作『カティリーナ弾劾』からの引用) (ロイスに) さあ、
ラテン語に訳してごらん。もういい加減に覚えなさいよ。

モアター (わけもなく、だしぬけに) 「胸の内なる情念の、主ともいふべきものありて、アーン

の蛇のごと、他の情念を呑みくだすなり」(訳注 一八世紀イギリスの詩人アレクザンダー・ポープ作『人間論』からの引用)

夫人とロイスが小声でつぶやいているとキャレン・ライト登場。二八歳の魅力的な女。きどらず人なつこい物腰。それでいて暖かく威厳がある。少女たちに笑顔を向けると、机のそばへ行く。キャレンの登場とともに、少女たちの態度が一変する。全員、キャレンを敬愛している。キャレン、モーター夫人の引用句を耳にし、困った顔で夫人を見る。

ロイス 「クオ ウスケ タンデム アビューテレ……」

キャレン (反射的に) 「アビューテレ」 (机の引出しをあける) ロザリー、髪はどうしたの？

ロザリー 切られちゃったんです、ミス・ライト。

キャレン (笑顔で) そうみたいね、新型のヘヤスタイル？ だけど、何だかトラ刈りねえ。

イーヴリン (くすくす笑いながら) こんなにひどくしゅるつもりじゃなかったんです、ミシユ・ライト。でも、ロザリーの髪って、変なんです。新聞に写真が出たので、その通りにしようとしたんだけど。

ロザリー (髪にさわってみて、キャレンを哀れっぽく見る) 先生、どうでしょう？ (身振りをつ

け) ことも、ここも長いけど、こっちは短くって、それに――

キャレン あとでわたしの部屋にいらっしゃい。何とかなるかどうか、みてあげましょう。

モアター 今後は断じて、髪を切ることは許しません。

キャレン ヘレン、プレスレットは見つかった？

ヘレン それが、ないんです。その辺じゅう探したんですけど。

キャレン もう一度探してごらんなさい。あなたの部屋にあるはずだから。

メアリー、右手から登場。花は花瓶に生けてある。キャレン、驚いたように花を見る。

メアリー こんにちは、ミス・ライト。(坐ってキャレンを見る。キャレン、じっと花を見つめたまま)

キャレン こんにちは、メアリー。

モアター(うろろろしながら) ペギーが『ヴェニスの商人』の法廷の場からポーシャの台詞を朗読していたところですよ。

ペギー、ため息をつく。

キャレン ペギーはポーシャが嫌いなのか？

モアター よさがわかってはいないようだけど、でもねえ――

キャレン (ペギーの頭を撫でながら) わたしもそう。メアリー、その花はどうしたのか？

モアター あたくしにだって摘んできたんですのよ。(あわてて) おかげですこし遅刻してしまっただけだ。でも、あたくしが花が好きだって聞いて、摘んできましたのよ。(ため息をひとつつく) 春の訪れを告げる野の花ですわ。

キャレン 咲きたてでもないでしょう、メアリー？

メアリー さあ。

キャレン どこで見つけたのか？

メアリー コンウェイのとうもろこし畑の近く、だったかな。

キャレン そんな遠くまで行く必要はなかったでしょ。これとそっくり同じ花が、今朝、ごみバケツに入ってたわ。

モアター (ちょっと間をおいて) まあ、まさか！ なんて汚らわしい！ (メアリーに) あんたという子は、今朝の食事に一時間遅れたことにも、もっともらしい口実をつけるんでしょうね。それに先週も―― (キャレンに) こんなことまでお話したくは、なかったのだけど――

キャレン (舞台裏から鐘の音。急いで) あら、時間だわ。

ロイス (ドアに向かいながら) アド、アブ、アンテ、イン、デ、インテル、コン、ポスト、プラエ